

令和3年度 第4回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和4年3月18日（金）10時00分～11時30分

四国森林管理局 3階会議室（ウェブ開催）

2 議事概要

【委員会の検討結果】

原木供給量については、増加傾向にありヒノキ出材が多く見られている。今後の見通しも現状維持で推移とされている。

原木価格は、スギは好調でヒノキは全体的に下落傾向となっており、今後の見通しでは現状維持が大半の意見であるが、ロシア情勢を含む世界的な需給・流通での影響により先行きを見通すことが困難な状況にある。

こういった状況を踏まえ、現時点での国有林材の供給調整を行う必要はないが、今後も市況動向等を注視しつつ需給バランスを見極めていくことが重要である。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・原木の生産活動は、一部の事業者では増産への転換もみられるが大半が昨年並みとなっている。今後の国産材価格の動向に不安があり新たな投資には踏み切れず、現状維持を考えている事業者が多い傾向である。
- ・国有林の素材生産請負事業は全て終了し、現在、自社所有林や他社の請負事業を実行中である。木材価格は特にヒノキが下落、下げ止まりが心配。
- ・ヒノキはやや強保合で推移、スギ材は変動前の価格に戻り、注文材の動きもなくなってきた。当分このままの状態推移すると思われる。

○ 原木市場・共販所

- ・入荷量が増加、3m材が多くなりすぎている。当面は安定的に入荷し販売も堅調と見込まれている。価格はスギ・ヒノキともに横ばいからやや値下がり傾向、先行きも単価はピークを過ぎ低下傾向だが、例年よりは高値で安定する見込み。
- ・出材は増加傾向で中でもヒノキの出材が多いが、スギの3m材は需要に対しての不足感がある。4～5月は現状が続き、5月後半ごろからは落ち着いてくるのではないかと。価格ではスギ3m材は値上がり傾向で、ヒノキは全体的に値下がり傾向。先行きは、価格自体は現状維持もしくは若干の値上がりがあるのではないかと。（世界情勢に左右される。）
- ・スギの出荷割合が増加傾向。スギ価格はスギの出荷が減ったことと合板関係の下支えの影響もあり好調、ヒノキ価格は2月に一気に下がった。先行きはロシア関係の影響

でレッドウッド等の流通に影響が見られ、それによりホワイトウッド等の外材にも影響が出てくると予想され、木材の不足が再び起こるかもしれない。深刻化する可能性もあり、そうすると価格も高騰する恐れがある。

- ・入荷数量が増え、今後も増える見通し。価格はヒノキは多少下がってきているがスギは高騰している。今後は現状維持、または多少下がる見通し。

○ 製材工場等

- ・十分に原木調達ができおり、稼働も順調、当面は安定の見込み。製品出荷も堅調、製品単価は頭打ちからやや値下がり傾向。今後の国産材製品は、市場出荷分での値下がりが懸念される。
- ・出荷も増え、落ち着きを見せ始め、原木価格は高値安定の状態が続いている。住宅着工は、コロナによって逆バブル現象による下支えが順調で製材は引き続き忙しい状態にある。商社等の話では住宅着工数は令和4年予測で令和3年との対比で80%を予測している。問題は、建築資材の高騰によって住宅を建てる消費マインドが押し下げられることではないか。
- ・平時より価格が高いためヒノキの出材量が多いが、工場では、製品の手持ち在庫が溢れてきたので少し減産をしている。ヒノキ製品の荷動きは悪く、価格が高いながらも輸入材が入ってきたのでヒノキ材のシェアが増える要素がない。短期的な見通しでは、スギ材との価格差がなくなった後、ヒノキ材が売れ始めるのではないか。
- ・出材はヒノキが多くスギが少なかった。合板のスギの引き合いが多い。ヒノキ製品は引き合いが少ない。ロシア問題等で国産材の引き合いが多くなる可能性がある。外材の代わりになるものは忙しい、特に横架材の手当は大変となるかもしれない。

○ 国有林材の供給調整についての意見

- ・原木の動きは順調に推移しており、国有林材の供給に特段の調整をする必要はないものとする。
- ・今後の先行きは不透明な要素も多いため、あまり大きな調整は現時点では行わない方が望ましいと考える。
- ・国有林材の供給調整は必要ありません。